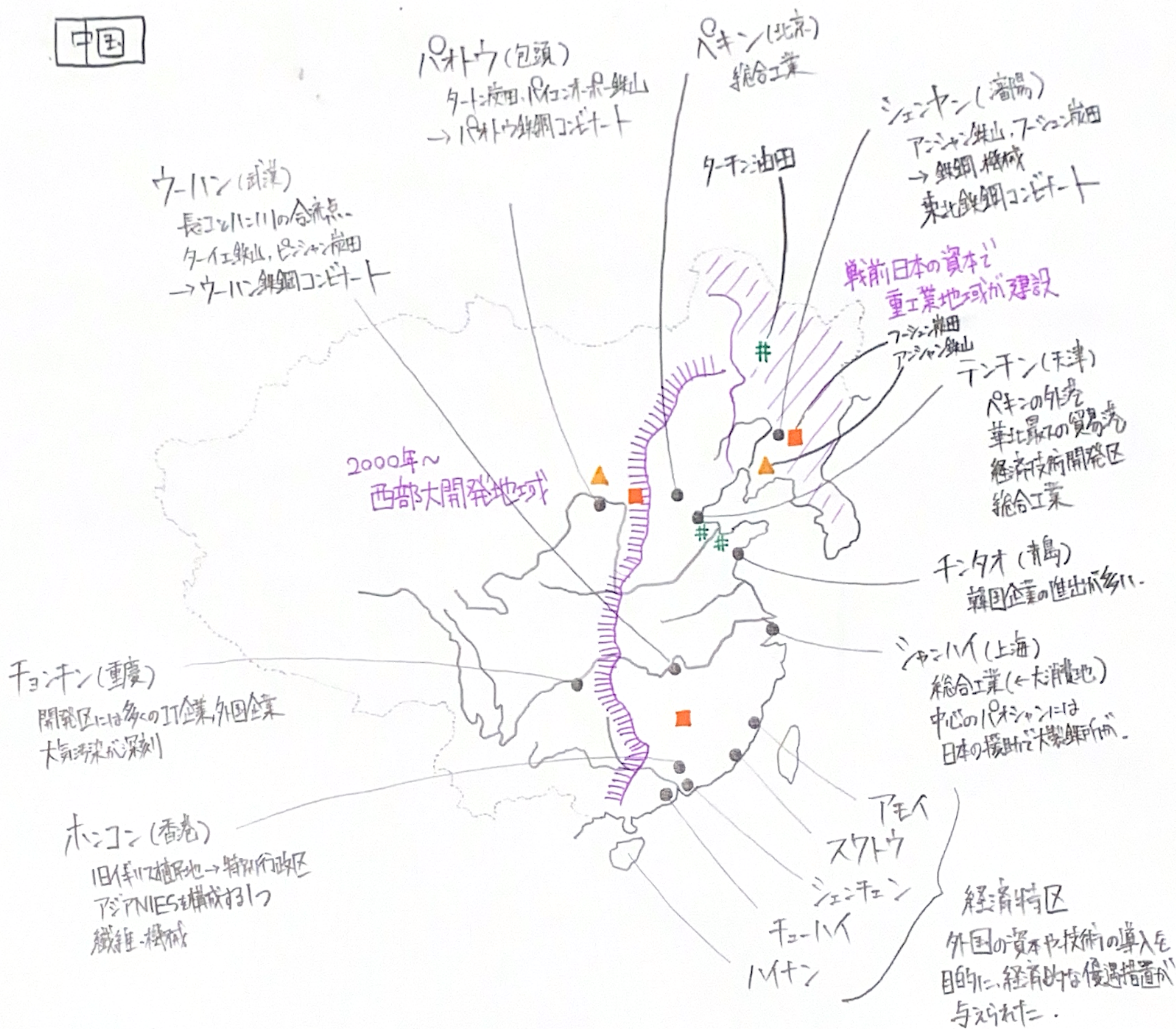


中国



① 戦前

シャンハイ・チンタオなどの臨海部
→ 日本・ヨーロッパ諸国の進出で綿工業
東北部 → 重工業

② 戦後

ソ連の援助で内陸部の重化学工業が発展
(アニヤン・パオウ・ウーハンなど)

③ 1978年: 改革・開放政策

1979年以降、経済特区の設定
さらにテンチン・チンタオ・シャンハイなどの経済技術開発区を設定
⇒ 沿岸部の工業発展

④ 2000年: 西部大開発

内陸地域と沿岸部の格差を是正する目的。

!! 生産のための原材料・部品の関税を免除。そのかわり7割以上を中国以外に輸出する。

バトナム

独立戦争・内戦の影響で工業化が遅れた。

1986年: ドイ・モイ政策

外国資本の積極的な導入で経済再構築、市場経済の採用
→ 急速な工業化

!! 良質で豊富な低賃金労働力と潜在的な消費市場の存在

!! 市場経済の導入により商品作物がつけやすくなり
コーヒー豆の栽培が盛んに。

シンガポール

ジュロン工業団地は外資に対する優遇策によって

造船・鉄鋼・機械などの重工業で発展

- ジュロン工業団地 → 輸出加工区

↓ 石油危機、造船不況

狭い国土を考慮してハイテク産業へ移行

マレーシア

1980年代にルックイースト政策を開始

日本や韓国をモデルに工業化を進めた。

→ 1987年に製造業のGDPが農林水産業を上回った。

輸出加工区の設置などで外資導入

→ 加工組立型機械工業が急成長

韓国

1970年代後半までは繊維を中心とした軽工業

1980年代初期から重化学工業へ転換



※70-ニール
北海ガス田の一部

※ロテルダム
ライン川のデルタ
ヨーロッパにある
→水運に支えられ交通都市

ローヌ地方
ミネラルの産出

スイス

永世中立国 → 金融業・保険業
精密機械工業 (付加価値の高いもの)
バーゼル...ライン川の可航上段

オランダ

ヨーロッパはEUの玄関口。
ロテルダム

フランス

カンタル
鉄鋼

トゥールーズ
EU協会の
航空機
エアバス社

マルセイユ
化学
輸入鉄鉱石・石油

リヨン
伝統的な絹織物

パリ
総合工業
服飾品、化粧品が有名

イギリス

かつては造船
今はエレクトロニクス産業
シリコングレン
中心都市: グラスゴー

ミッドランド地方
ミッドランド炭田がある
かつては「ブラックカンタリー」
鉄鋼業は内陸部 → 臨海(カーディフ)

ランカシャー地方 (工業地帯)
中心都市: リヴァプール、マンチェスター
リヴァプールは貿易の中心港 → 綿(イギリス、インド)
産業革命発祥の地 → 綿織物工業が中心
リヴァプール → 造船

ミッドスブラ
北海油田からパイプライン
→ 石油精製・石油化学工業

ヨークシャー地方 (ヨークシャー工業地帯)
少雨 → 羊の飼育 → 毛織物
中心都市: リーズ

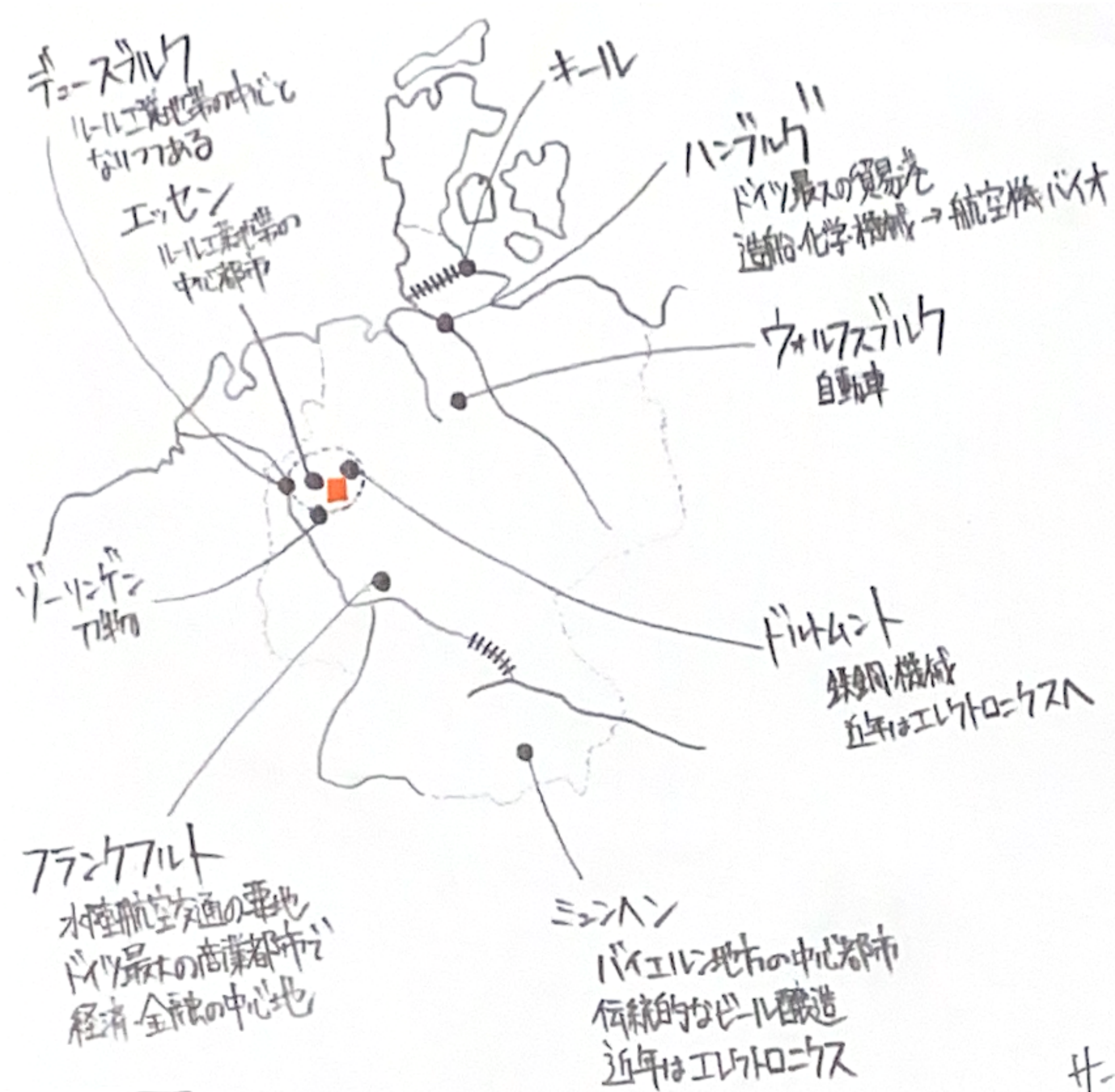
ロンドン
都市人口率が高く、印刷・出版・日用品中心の総合工業

カーディフ
バーミンガム

#

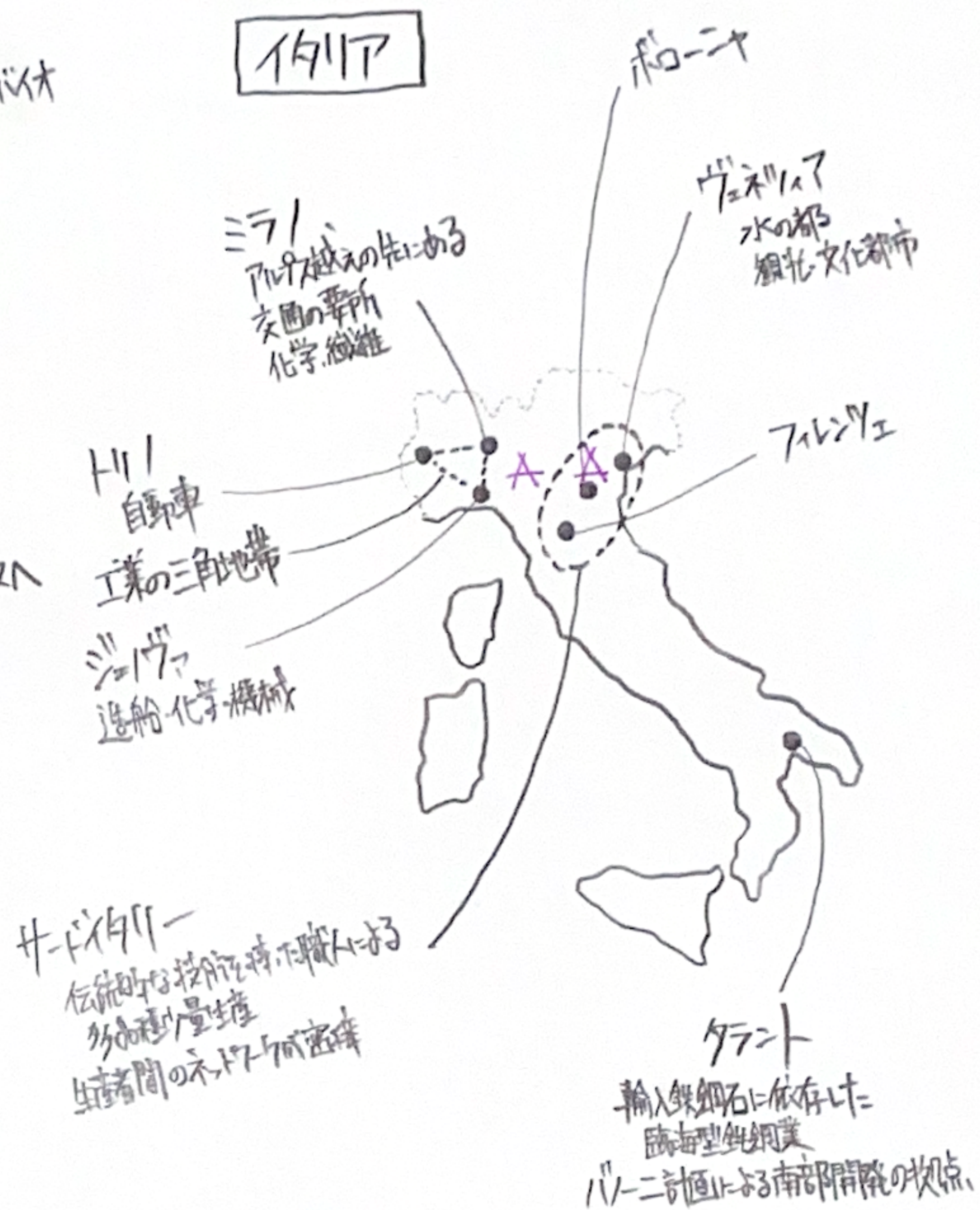
多雨
少雨

偏西風
→
→
→



ドイツ

イタリア



※ 工業の三角地帯を含む北イタリアの工業地帯は、アルプス山脈の水力発電とポー川流域の天然ガス生産を背景に発達した。

サハリン

造船・電気・精密機器などの機械工業
→日本や韓国、中国の自動車・カーの進出

モスクワ

人口約850万人
→総合工業

アルハンゲリンスク

シベリヤ

水力発電による
金属精錬・木材加工

タイシエト

シベリヤ鉄道と
東シベリヤ鉄道の
分岐

イルクーツク

シベリヤ東部の中心都市

ウクライナ
ドニエツク

サマラ

ヴァルダ・ウラル油田
→石油化学
ヨーロッパ向け
ドイツ・イタリアの拠点

チェリヤビンスク

シベリヤ鉄道の起点

ウクライナ

ソ連当時最大の工業地帯

ノヴォシビルスク

シベリヤ鉄道とオビ川が交差
ガス・石油・鉄鋼・機械
シベリヤ開発の拠点となる

ノヴォクズネツク

ガス・石油・鉄鋼・機械

ウラジオストク

シベリヤ鉄道の東の起点
軍港・漁港
日本の主要貿易港
造船

ハバロフスク

極東地域の中心都市
精糖

クリウイロク山

ドネツ炭田

ヴァルダ・ウラル油田

河川の長さ

1. タイム川
 2. アマゾン川
 3. 長江
- オビ川、エニセイ川、黄河

流域面積

1. アマゾン川
2. エニセイ川、タイム川
3. シシマ川、ラプタ川

黒海

カスピ海

カスピ海

カスピ海

オビ川

エニセイ川

レナ川

アムール川

バクー油田

フェルシ油田

ガス・石油・鉄鋼・機械

シリコニャスト

シリコニャレ

シリコニャート

先端技術集積地域
→ 南部・西部

シリコニャン

シアトル

航空機工業(ボーイング社)
コロネア川のグランドクーリーダムによる
水力発電を基礎とする
CVA

サンフランシスコ

陸海空の要地・有数の貿易港
穀物・果物の輸出
造船・自動車工業の発達

サンディ

エレクトロニクス関係の
工場・工場が若い
シリコニャレの中心都市

ロサンゼルス

カリフォルニア油田→石油化学
航空機・映画

フェニックス

エレクトロニクス
温暖乾燥→観光地

エレクトロニクスバート

サンバート

北緯37度以下の地域
1970年代以降ハイテク産業の進出が著しく
企業や人口の集積がみられる
→ 地価が安く、広い土地が得られ
低賃金労働者も確保しやすいため
製造業について、出荷額・雇用者数は
ともに右肩上がりだ。

フロストバート

北緯37度以北に位置する州
鉄鋼や自動車工業の発展など、
産業構造の変化に伴って衰退している。
製造業について、出荷額・雇用者数は
ともに右肩下がりだ。

1970年代後半
EU・日本の台頭

ヒューストン

メキシコ湾岸油田→石油精製・石油化学
航空宇宙産業、先端技術
→ NASAの拠点

ダラス

綿花の集積地
内陸油田開発→石油化学
近年はエレクトロニクス

ニューオリンズ

綿花の輸出港
石油化学

エレクトロニクスハイウェイ

ボストン

いち早い工業化→繊維・繊維物
エレクトロニクス

ニューヨーク

アメリカ最大の都市
金融・経済の発達
総合工業

ボルティモア

造船・鉄鋼
郊外のスプロールポイント
→ 輸入資源に依存する鉄鋼都市

デトロイト

自動車工業都市
今は工場関係は他
日本企業の進出
多かた。

シカゴ

農産物の集積地
→ 食肉・豆・豆製品など
鉄鋼・自動車
穀物・豆に集中

ピッツバーグ

アパラチア炭田→鉄鋼
再開発が進み、IT・バイオも。
鉄の都
現在はバイオテクノロジーなど
先端技術産業⇒環境都市に。

アメリカ

- ① 滝綿都市(水力発電)
- ② ニューイングランド地方(産業革命)
- ③ 五大湖沿岸(資源開発の進展)
- ④ 大西洋岸(原料輸入増加)
- ⑤ 太平洋岸(対日戦)
- ⑥ サンバート(安い、広い、温暖)

太平洋側は航空機工業の発達
軍事拡張路線をとった日本を警戒し、
軍事拠点を太平洋側に集中。
→ 軍用機生産にさらに発展